おけとものがたり vol.27

網走本線の開通②

困難伴った陸別ー置戸間の工事

網走本線建設ではここ（学友橋下手）が難所だった

沢本楠弥らの懸命な陳情運動により「置戸経由」にこぎ着けた網走本線の工事は、明治41年に上利別ー陸別間の起工を見、同42年５月陸別ー置戸間を起工して同年12月に竣工、置戸ー野付牛間は同43年４月に起工、７月には建築列車の置戸入りが実現し、正式開通は翌44年９月のことでした。

鉄道開設においてはどこでも困難を伴いますが、ことのほか陸別ー置戸間においては全く道路がなかったために、工事着手に際しては新たに道路を開削し、工事用人夫の日用品に至るまで全て馬背によるものでした。また、池田から陸別までの工事では、まず軽便軌条（小型の鉄道）を敷設し、建築列車運転の前に施工する材料を配給し、その後は専ら建築列車で材料を配給して仮施工をしてきましたが、陸別ー置戸間は地盤の屈起が激しく、軽便線を敷設する等の方法をとることができず、やむなく橋梁等は仮設の上に軌条を敷き、やっと土工を進めて工事を行うなど、一層の困難がありました。

置戸町域内の鉄道工事は釧北国境から北光崖下までを第７工区と称し、約３00人の土工が働きました。第８工区と称した北光坂下以東の工事区間約20キロは荒井組が落札しましたが、この工区は常呂川岸の岩石破壊のため意外の難工事となりました。さらに伝染病発生により多数の死亡者が出たため、明治43年８月に荒井組では鉄道工事殉難者の碑を建てその霊を慰めました。

鉄道工事殉難者の碑
（北光パーキング付近）

スコップとツルハシ、それにモッコとトロッコが工具・運搬具の全てでした。これだけで山を崩し、谷を埋め、線路を延ばしていったことを考えると、年間30余キロの敷設はかなりのスピードといえます。それは大量の人海戦術によってのみ可能であり、網走本線は名もなき多くの犠牲者によって開設されたといっても過言ではないのです。

（参照：置戸町史、置戸町史上巻）

きらりっ！

歌う喜び、伝え続けて20年

おけとコーラスサークル「そよかぜ」会長　佐久間光昭さん

今年、設立20周年を迎えたコーラスサークル「そよかぜ」が10月21日、中央公民館で記念のコンサートを開催しました。「そよかぜ」は、平成４年に中央公民館主催のコーラス教室として発足。現在は20歳代から80歳代までの歌うことが大好きな会員20人が週１回、同公民館で練習を重ねています。21日のコンサートでは、サークル設立のきっかけを作った平田祥子さん（江別市在住）も応援に駆けつけ、懐かしの名曲や故郷置戸にちなむ曲など全15曲を披露。設立当初からのメンバーであり、現在は会長を務める佐久間さんは「細々ながらもこうして20周年を迎えることができたのは多くの人たちの支えがあったからこそ。『そよかぜ』は決して上手とは言えませんが“心をつなぐハーモニー”をモットーにこれからも歌う喜びを伝えていきたいです」と誓いを新たにしていました。